

Pinyo

動臨研 野生動物ニュースレター Vol.41



Contents

- ▶ アドベンチャーワールドにおける動物の健康管理 花田 郁実
- ▶ オットセイ救護体験記 小笠原淳子
- ▶ 野生鳥獣保護管理基金へのご協力をお願い 編集部だより

アドベンチャーワールドにおける 動物の健康管理

アドベンチャーワールド

獣医師 花田郁実



フタユビナマケモノへの皮下補液

私が倉吉動物医療センター・山根動物病院を退職して早13年目が過ぎようとしています。鳥取での生活も大好きでしたが、現在は遠く離れた和歌山県白浜町のアドベンチャーワールドというテーマパークで獣医師の仕事をしています。

アドベンチャーワールドはジャイアントパンダの飼育で有名ですが、他にもゾウ、シロサイ、キリンといった大型草食獣、ライオンやアムールトラといった大型肉食獣、イルカやペンギンなどの海棲動物など約140種1400頭の動物を飼育しています。

動物園の獣医師というと、皆さんは何を思い浮かべますか？動物の「治療」が一番に思いつくのではないかと思いますし、実際、その時間が一番長いですが、他にも「繁殖管理」「予防・衛生管理指導」「教育」といった仕事が行われます。治療をしながら、動物の繁殖を計画的に進めたり、人工哺育が必要となれば対応、そして、ヒトと同じで動物も汚い環境ですと細菌感染・寄生虫感染を起こすので衛生管理指導を行い、時には小学生などに「動物の命」について考えてもらうような授業をしています。どれもやり甲斐がありますが、特に「治療」「予防・衛生管理」が健康管理に直結しています。そこで、今回はアドベンチャーワールドにおける動物の健康管理についてお話をしたいと思います。

まず、動物の健康管理で一番初めに重要なことは飼育員が「異常に気づくこと」です。普段の様子をよく見ておくことで異常に気付くことができます。そして、飼育員と一緒に獣医師は「異常の原因」を

考えます。気温変化なのか、どこかで怪我をしたのか、などです。そして、更に飼育員と相談しながら獣医師は検査方法について考えます。犬猫と同じように、「血液検査」「レントゲン検査」「エコー検査」ができないか、など動物ごとに方法は異なります。

例えば、血液検査。ミーアキャットやウサギは飼育員に「保定（検査のために動物を動かないように持つこと）」してもらうことで首や耳、肢から採血ができます。では大きい動物はどうでしょうか？こんなときのためにハズバンダリートレーニングがあります。ハズバンダリートレーニングとは、『受診動作訓練』のことで、動物に協力してもらいながら、医療行為や健康管理を行うためのトレーニングです。ご褒美にはその動物が好きな餌（魚やリンゴ、ペレットなど）を使います。そうすることで、イルカは尾鰭から、アシカは後ろ足の鰭から、パンダは腕から採血ができます。キリンも首から採血できますので、写真もご覧ください。

では、検査が終わって治療をしたいとなったとき、薬はどうやって与えると思いますか？食欲がある動物であれば、餌に混ぜます。イルカであれば魚の鰓に薬を入れることができますし、リンゴが好きなモルモットやウサギはリンゴに薬をまぶしたりします。しかし、食欲がない場合には注射をしないといけません。チーターやライオンなどはスクイズケージといって、奥の壁を手前に引くことで動物を挟みこめる狭小ケージがありますので、そこに動物を入れることで人も動物も安全に注射をすることができます。更に大きい動物はどうしましょう。サイはト

レーニング下で耳の後ろに注射ができますが、先日困ったのがゴールデンターキン（中国三大珍獣の1種）です。近くで注射ができないので、銃で注射を打ち込みました。他にも、もう少し近づける動物には槍型の注射器で「えい！！」と打つこともあります。そして、治療も大切ですが、何事も、動物も人も安全に、が大切です。

動物園で飼育されている動物は、やはり元気で生き生きとしていないと、お客様に感動を与えること

ができません。「動物ってすごい」そんな感動をお客様が感じることで、動物を身近に感じてもらうことができます。そうすることで、少しでも動物に関心を持ってもらい、野生動物（身近な動物から遠い海外の動物でもいいと思うのです）や地球環境を考えてもらいたいと思っています。そのために、動物園動物の健康管理は重要だと思っています。皆様も今度のお休みに動物園や水族館まで足を伸ばしてみてはいかがでしょうか。きっと、日常生活で感じない感動があると思います。



パンダの採血



キリンの採血

オットセイ救護体験記



公益財団法人 動物臨床医学研究所

獣医師 小笠原淳子

当財団は、鳥取県から疾病野生鳥獣保護施設の指定を受けた倉吉動物医療センター・山根動物病院（中部）、米子動物医療センター（西部）の協力の下、傷病野生鳥獣の救護に取り組んでいます。保護する動物は鳥類が圧倒的に多いですが、哺乳類もたまにあります。その中でも去年、とても珍しい動物の治療をする機会がありました。その貴重な体験をご報告します。

その動物とは、海の哺乳類、鰭脚類の「オットセイ」です。2023年3月20日の午前中、県立博物館からオットセイが鳥取市酒津海岸に漂着していて、海に戻すことを試みているが、かなり衰弱しているようだ、と連絡がありました。これはもしかしたら保護されて病院に来るかも？でもオットセイなんてどうやって治療、看護したら良いのか？当財団は、保護活動以来、4頭ゴマフアザラシを保護した経験がありますが、オットセイは初めてでした。学生時代に水族館で実習した時に、アシカとオットセイは獰猛なので、とにかく油断しないように、と教えていただいたことが脳裏をかすめました。そんなことをあれこれと考えているうちに、県から正式に財団に保護治療依頼があり、協力病院である倉吉動物医療センターで治療することになりました。昼過ぎ、県職員の方、県立博物館の方とともに動物病院に到着したオットセイの最初の感想は「大きい！」でした。彼女（雌でした）はクマの捕獲用の大きな檻で運ばれてきました（写真1）。体長は113cmと若干成獣の体長よりも小さめでしたが、ひげが白かったので成獣と思われました。しかし体重は25.6kgとかなり痩せていて（成獣雌の体重が50kgぐらい）、肋骨がわかる位、皮下脂肪は減っていました。またあまり動かず、閉眼気味で、非常に衰弱しているようでした（写真2）。また鰭の一部に軽度の傷があるも

の、大きな外傷は認められず、X線検査では特に大きな異常を認めず、血液検査では肝数値が高く、また脱水状態であることがわかりました。

私たちは、大変状態が悪い状態でしたが、このオットセイが何とか回復して放獣できる事を目指し、治療を開始しました。まず、抗生剤、強肝剤などを加えた皮下点滴を実施し（写真3）、また、魚などの置餌は全く興味を示さず食べないため、高栄養の流動食をシリンジに入れて2人がかりで強制給餌を行い、なるべく大きめの場所にマットを敷き管理しました（写真4）。数日経過すると、オットセイは初診時よりも少し元気になってきましたが、相変わらず自分からは食べず、また最初は何とか受け入れていた強制給餌をだんだん嫌がるようになり、十分給餌する事ができなくなってきました。嗜好性の問題もあるかと、生のイワシをすり潰してペースト状にしたものを流動食として与えてみたり、食欲増進薬を使用してみたりしましたが、大きな変化はありませんでした。食べないのは調子が悪いからなのか、あるいは環境のせいなのか？あるいは普段海で食べているものと異なるからなのか？困り果てて水族館の獣医師に相談したところ、野生動物は普段生きている獲物を食べているので、何か生きた餌を与えてみたら興味を示すかも？というアドバイスと、今より広いところに大きめの入れ物に水をいれたら、ストレスも少しは少なくなるかも？という指摘を受け、早速オットセイを広いドッグランに移動させ、大きめのトロ箱を置き、その中に本当は海の生きた魚を入れたかったのですが入手困難なため金魚を数匹買ってきて泳がせました。また時々ホースで水をかけて体を湿らせ、治療も継続しました。しかしオットセイは徐々に元気がなくなり、水の中を悠々と泳いでいる金魚たちの横で動かず、じっとしてい

ることが多くなりました。そして何とか回復してほしいという願いも空しく、第9病日の3月28日早朝、残念ながら死亡を確認しました。同日夜病理解剖を実施しましたが、明らかな異常所見は認められず、この個体がどうして漂着するまで衰弱したのか、はっきりした原因は判りませんでした。

今回の経験によって、改めて野生動物の治療の難しさ、また海棲動物を管理するあたり、適切な環境を準備する難しさを痛感しました。鳥取県は日本海に面し、また東西にわたり海岸線が伸びている県です。陸棲動物と同様、海棲動物が保護される機会は大いにあると思います。今回のオットセイが残してくれた貴重な経験を活かし、今後このような機会があれば、次回は是非海に放獣できるよう頑張りたいと思います。

最後になりましたが今回の治療に関し、貴重なご助言を頂きました、南知多ビーチランドの大池辰也先生、アドベンチャーワールドの花田郁実先生に深謝いたします。

*豆知識

オットセイ (Fur seal) : 鰭脚類アシカ科でキタオットセイ属 (キタオットセイ) とミナミオットセイ属 (ミナミオットセイ) の総称である (今回のオットセイはキタオットセイ)。体長はオス 2.1m、メス 1.5m、体重はオス 270kg、メス 50kg とオスの方が圧倒的に大きい。1頭のオスが複数のメスを独占しハーレムを形成する。ビロード状の体毛が密生していて防寒性、装飾性に優れているため乱獲され、激減したが、現在は同じく乱獲されたラッコとともに、鰐鰐鰐鰐 (らっこおっとせい) 猟獲取締法という法律 (1912 年制定) によって管理されている。



写真1



写真3



写真2



写真4

2022年7月1日から2023年11月30日までに野生鳥獣保護管理基金にお寄せいただきました総額は、90,000円でした。ご協力頂きました皆様に心よりお礼申し上げます。

野生鳥獣保護管理基金に御協力お願い致します

近年、人間活動が野生動物の領域にまで広がる一方で、里山の崩壊や気候変動、在来種の増加など、人と野生動物において様々な問題が生じています。

野生どうぶつ友の会は、絶滅危惧種を含む疾病野生動物を再び野生に戻す活動を通じて、命の大切さや動物愛護思想の普及を図っております。

当方の活動は、まだまだ微力ではございますが、長期にわたり続けて参ります。今後とも、御理解御協力を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

<基金送付先>

郵便振込：口座番号 01430-6-14893

口座名：公益財団法人動物臨床医学研究所 野生鳥獣保護管理基金

《表紙の動物》コウノトリ

2023年3月に香川県に行った折、丸亀市付近の休耕田に大型の鳥が1羽いるのを見かけました。よく見ると白い頭部と胴体、翼の先端が黒い様子からコウノトリと思われました。これは珍しいと思い、急いで車を引き返して止め、カメラに望遠レンズを付け、コウノトリを驚かさないように安全な距離を保って近づきました。近くに住む人が数人、コウノトリの観察に来ていました。その人の話によると、数日前から見かけるようになったそうです。コウノトリはしばらくの間、田んぼをウロウロした後、どこかに飛び立っていきました。

写真のコウノトリの足を見ると、足輪がついているのが分かるかと思います。左右の足にそれぞれついていて、左足には緑と黄色、右足には青と青となっています。この色から個体識別が可能で、兵庫県立コウノトリの郷公園のHPから検索ができます。それによると、この個体はJ0471で2022年5月3日に兵庫県豊岡市の野外で孵化した、雄の個体だそうです。同年7月12日に巣立ったそうです。写真を撮ったその後のことが気になったので、コウノトリの郷公園に問い合わせたところ、2023年11月28日に兵庫県加西市で目撃されたそうです。

豊岡から丸亀までは直線距離でおよそ200kmあります。コウノトリの飛翔能力はとても高く、1日で300km

以上移動出来るそうです。幼鳥は良い餌場を求めて全国を飛び回っているそうです。日本生まれの個体が韓国や中国へ移動していることも確認されているそうです。

コウノトリは1800年代中ごろまでは日本各地に生息していました。しかし、1800年代後半になると、コウノトリは稲を傷つける害鳥として駆除されたり、第二次世界大戦中は巣を作る赤松が伐採されたり、農業に含まれる水銀の影響などによって生息数を減らしていき、1971年に野生のコウノトリが絶滅しています。その後、1986年に飼育されていた最後の1羽も死亡しました。1985年以降、ソビエトなどから導入したコウノトリによる繁殖を開始し、2005年から野外への放鳥を開始しました。今回の写真のコウノトリもその子孫にあたります。

昨今、地球温暖化ではなく、地球沸騰化と言われる時代に突入しました。コウノトリが環境中で増えてくれることは、環境が少しでも良くなっているからだと思いたいものです。コウノトリは子供を運んできたり、コウノトリの恩返しという話があるように、幸福や繁栄のイメージがあるようです。2024年が皆様にもコウノトリにも環境にも、良い年となりますように。

公益財団法人 動物臨床医学研究所
獣医師 水谷雄一郎

編集部だより

今回の寄稿は、元職員である花田先生にお願いをしました。うちで犬や猫を中心とした臨床獣医学を学び、いくつかの動物園を経て、アドベンチャーワールドで獣医師として働かれています。アドベンチャーワールドは、ジャイアントパンダの繁殖に最も成功している施設で、中国以外であれば世界No.1の繁殖実績を有するすごいところなんです。他にも多くの動物がいますので、是非一度足を運んでみてください。

当施設に搬入されたオットセイですが、搬入時には衰弱が激しく、大変厳しい状況であったものの、何とか救命できればと思い治療を行ったのですが、力おぼえず亡

くなってしまいました。非常に残念でなりません。合掌
今後も、野生動物の保護活動に力を入れて参ります。

公益財団法人 動物臨床医学研究所
副理事長(専務理事・所長) 高島一昭

.....
公益財団法人 動物臨床医学研究所 野生どうぶつ友の会
〒682-0025 鳥取県倉吉市八屋 214-10
Tel 0858-26-0851 / Fax 0858-26-2158
E-mail dorinken@apionet.or.jp
URL <https://dourinken.com>
<http://d-wildlife.jp.org/>
.....

ニュースレター「Pinyo」Vol.41 (2023年12月)
発行：公益財団法人 動物臨床医学研究所 野生どうぶつ友の会